

## 2024年3月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答要旨

### 《上期実績について》

Q1：プレス・樹脂製品事業では2Q（7-9月）の営業利益率8.5%と収益性が高まっている、これをどのように見ているか？一過性の利益押し上げ要因があるのか教えてほしい。

A1：一過性要因は特にありません。2Qは、日本と米国を中心にトヨタの生産台数が高いレベルに回復したうえ、当社の国内外でのものづくりにおいてもロスを最小限に抑え、順調に生産することができました。また今年度から、米国のプレス設備の耐用年数を7年から15年に変更した影響で減価償却費は前年と比較し2Q累計で8億円減少しました。この2点の要因により、順調に収益が上がった期間となりました。

### 《下期見通しについて》

Q2：下期は、上期と比較して利益水準・利益率ともに大きく低下する見通しとなっているが、要因は？また、実際にはどの程度まで利益率が上がる可能性があるのか、実力値を教えてほしい。

A2：下期に東大垣工場の新工場が稼働開始しますので、建物・設備の減価償却費で約7億円、生産準備の経費や土地・建屋に関連する諸費用で約4億円を見込んでおり、下期の利益減少要因となっています。また、当初上期に予定していたものの、一部下期にずれている経費が数億円あることも下期の利益減少要因となっています。なお、経常利益については、上期は営業外収益で為替差益を含む一方、下期は為替差益ゼロで見えています。円安の継続による利益増加の可能性はありますが、為替の動向によらず、今回の発表値以上の実績を上げられるよう、国内外でロスの最小化、利益の最大化に取り組んでいます。

Q3：下期見通しの前提台数は？堅めの前提にみえるが、上期と同レベルの生産状況が続けば、上期と下期の差異要因以外の部分は、生産台数増と連動して利益も上がるという理解で良いか？

A3：トヨタの生産台数前提は基本的には1Q発表値の時点と大きく変更はしていません。米国については、年間で3%程度のプラス、中国は若干のマイナスを織り込んでいます。生産台数が増えれば、変動利益分の利益は上乘せになります。

Q4：下期見通しに、労務費・経費・販売価格をどのように織り込んでいるか？また、償却費については日本の東大垣工場の償却費増加と、米国で償却期間を変更した結果の償却費減少が相殺して、増減要因分析上はプラスマイナスゼロという理解で良いか？

A4：労務費は米国等の賃率アップを想定し、前环比で増加を見込んでいます。販売価格は、1Q予想から変更無しとしていますが、プレス・樹脂事業においては定期の価格改定を予定しており、バルブ事業はアップしている材料価格を販売価格に転嫁しつつ値下げ抑制を図っています。償却費については、ご理解の通りです。

Q5：材料価格による利益マイナス影響が続いていますが、来期に向けて、回収は進むのでしょうか？

A5：一番大きな要因は、TPMS 事業の IC 価格です。ユーロ建てで海外から購入しているため、今のユーロ高、円安の状況の中で購入価格上昇が続いて、それによる収益マイナス影響が見込まれます。次にプレス事業におけるスクラップ単価につきまして、スクラップ売却価格が価格下落傾向にあるため、その影響を見通しに反映致しました。これらが前回との差になります。

バルブ事業における黄銅価格も高止まりが続いております。顧客への価格転嫁については、今期もある程度成果は出ていますので、来期にかけて材料価格が上昇した分を価格転嫁できるよう、顧客との交渉を引き続き進めていきます。

#### 《中長期取り組みについて》

Q6：電動膨張弁の欧州・米国向けの開発、拡販推進の進捗状況について教えてください

A6：今後バッテリーEV が成長していく中で、電動膨張弁は当社にとって非常に重要な製品と捉えています。日系メーカーへの納入開始と並行して、フランス・アメリカ拠点の営業・開発メンバーと協力しながら欧米市場向けの開発・拡販を進めています。開発においては、日本の開発メンバーによるバックアップ体制を整え、よくコミュニケーションを取り、情報を共有しながら進めています。まだ納入開始には至りませんが、お客様には、当社の技術に対し良い評価をいただいています。熱マネジメントシステムには、生産開始した電動膨張弁に限らず、その他複数の電動膨張弁が使われますので、追加受注に向けグループ一丸となって力を尽くしています。

Q7：来期見通しにおいて、プレス新工場と電動膨張弁の立ち上げによって、いつから、どれくらいの収益寄与を予定していますか。トヨタ生産台数や為替変動以外の要素で、こういった形で売上や利益が増えていく、といったストーリーがあれば教えてください。

A7：プレス新工場立ち上げにつきましては、全部でプレス機を6台入れる予定ですが、そのうち本格的に稼働するのはまだ一部です。来期は、全ての設備がフル稼働する状況ではないため、まだ収益寄与はマイナスになると予想しています。

バルブ、電動膨張弁につきましては、今期から生産開始し、現在はまだ少量ですが、25年以降、徐々に量が増えていくと想定しています。それ以外の要素では、TPMSの拡販も実施しており、来年以降に結果がみえてくると思っています。バルブ事業に関しては、特定の顧客に頼った製品ではないため、欧米含めた市場がどう拡大するかが、大きく影響します。今が底だと考えており、来年以降に期待しています。

地域別では、中国市場は日系メーカーが苦戦している状況であり、来年以降も厳しい状況が続くと予想しております。タイ市場は1Q見通し時より2割程度落ちており、今後の予想が難しい状況です。当社の売上利益の7割を占める日本・米国向けにおいて顧客の生産台数が出て、収益を上げることができれば、連結収益として良いご報告ができますので、引き続き、しっかりとした事業基盤を築いていきます。

Q8:ギガキャストについて、1Q決算時は、これから影響を注視するというお話でした。その後トヨタからサプライヤーに対し情報共有などありましたか？ギガキャスト採用の場合、事業への影響について教えてください。

A8：新たな情報展開はなく、営業活動の中での情報収集や、公式の情報発信など、引き続き動向に注視している状況です。ギガキャストは、車両アンダーボディのフロントとリア部分の部品が対象とされますが、その領域には当社の受注部品がほとんどないため、当社におけるギガキャストの影響はあまり無いと考えています。直接的な影響はないものの、今後、ギガキャスト化領域の部品サプライヤーが、残るプレス部品に拡販攻勢をかけてくるなど、競争の激化は起こりうると考えています。当社がギガキャストに参入することは無いと思いますが、超ハイテンや、アルミプレスなど、当社の得意とする領域での軽量化ニーズはまだ多くあると思いますので、取り組みをさらに強化していきます。

Q9：中国の地場系のメーカーもかなり台数を伸ばしてきています。中国系メーカーを開拓するかどうか、拡販の方向性について教えてください。

A9：基本的には日系メーカーを中心に拡販を考えていますが、一部の製品については、地場の中国メーカーへも拡販活動を実施しています。

以上